

平成 21 年度

かながわ文化芸術振興計画(平成 21-25 年度)
年次報告

平成 22 年 8 月

目 次

1	基本的な施策の実施状況	
(1)	県民の文化芸術活動の充実	
ア	県民の文化芸術活動の充実	1
イ	地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用	6
ウ	芸術家等の育成等に関する支援等	8
エ	文化芸術団体の育成等	9
オ	子どもの文化芸術活動の充実	9
カ	学校教育における文化芸術活動の充実	11
キ	高齢者、障害者等の文化芸術活動の充実	12
(2)	文化資源を活用した地域づくりの推進	
ア	文化芸術に関する交流の推進	13
イ	創造的活動等の推進	14
ウ	文化資源の活用	15
エ	景観の形成	16
(3)	文化芸術の振興を図るための環境整備	
ア	学校施設、公共的施設の活用等	17
イ	県立文化施設の充実	17
ウ	情報通信技術の活用	19
エ	文化芸術活動に対する支援の促進	19
オ	顕彰の実施	20
2	進行管理のための参考指標	
・	県立文化施設利用者数	21
・	文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度(全県)	21
・	文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度(地域別)	22
・	県立文化施設の利用率(県民ホール・音楽堂・かながわアートホール)	23
・	過去1年間に美術鑑賞等の文化芸術の鑑賞・活動を行ったことのある人の割合	27
・	学術・文化・芸術・スポーツ分野で活動するNPO法人の数	29
・	本県でメセナ活動を行った企業、プログラム数	30
3	文化芸術振興審議会意見	31

かながわ文化芸術振興計画年次報告について

かながわ文化芸術振興計画は、平成 21-25 年度の 5 か年間に取り組む基本的な施策を掲げています。この年次報告は、それぞれの施策について、その主な取組み状況についてまとめるとともに、計画の進行管理に当たっての参考指標を掲げており、これらについて県文化芸術振興審議会から意見を得ながら、計画の進行管理を行うものです。

「1 基本的な施策の実施状況」においては、各事業の開催回数などに加え、アンケートで示された事業参加者の満足度のほか寄せられた意見を記載し、効果を把握するよう努めています。

「2 進行管理のための参考指標」については、施設の利用者数、利用率など量的なもの、文化芸術に関する県民の意識など質的なものの両面を取り上げ、データの経年比較を予定しています。

今回の報告は初年度のものであるため、前年度比較可能な参考指標の施設利用率等を除き、前年度比較を行っていませんが、次年度以降の報告では可能な限り各実施事業についても分析を行うよう予定しています。

1 基本的な施策の実施状況

(1) 県民の文化芸術活動の充実

ア 県民の文化芸術活動の充実

① 文化芸術に対する関心、理解を深めるための普及啓発

* 県立文化施設での文化芸術に関する講座、講演会等の開催

[県民ホール]

- 室内楽、民俗舞踊、オペラ等の楽しみ方などを解説する講座「舞台芸術講座」(「メンデルスゾーン生誕 200 年記念レクチャーコンサート&コンサート」1 回など計 3 回、540 人)
- パイプオルガンによる無料コンサート「パイプオルガン・プロムナード・コンサート」(8 演目 8 回、2,033 人)
- 文化芸術を気軽に楽しむための入門的な内容を主とした「季節の風とティータイムコンサート」(3 演目 3 回、783 人)
- 公演でのプレトークの実施

ほか

[音楽堂]

- 「大野和士のオペラ・レクチャーコンサート」(1 回、1,004 人)、夏休み期間に子どもを対象とした参加型のコンサート「子どもと楽しむ夏・県立音楽堂 藤原真理チェロ・コンサート」(1 回、480 人)

ほか

[かながわアートホール]

- 神奈川フィルハーモニー管弦楽団の協力を得た無料の「カジュアルコンサート」(2 演目 2 回、517 人)
- CD コンサート(14 回、341 人)

【近代美術館】

- ギャラリートーク(葉山館ほか各館計 32 回、796 人)
- 「『荘司福展』記念講演会」など講演等(葉山館ほか各館計10回、1,123人)
- 「テグスで考える一糸が直立する?!」等ワークショップ(葉山館ほか各館計 12 回、128 人)

ほか

【神奈川近代文学館】

- 展示室で展示内容を詳しく解説するギャラリートーク(23 回、613 人)
- 「虚子の客観写生」など講演会(14 回、2,169 人)
- 「D坂の殺人事件」寺田農氏など朗読会(8 回、2,197 人)
- 「中島敦の文学ー中国文学との関わりからー」など講座(7 回、646 人)
- 「雁」など映画会(8 回、1,095 人)
- 展示室内ビデオコーナー用ビデオ「森鷗外展ー近代の扉を開く」の制作

ほか

【金沢文庫】

- 「大乘仏教と菩薩たち」など学芸員による月例講座(11 回 1,318 人)
- 「文化人・伊達政宗」など特別講演会(3 回 280 人)
- 「菩薩とはどういうひとたちか」など夏期・冬期講座(2 回 243 人)

ほか

【歴史博物館】

- 学芸員による展示解説(特別展、12 回 527 人)
- ミュージアムトーク(常設展、2 回 54 人)
- 「開港場の諸相」など講演会等(12 回、818 人)

ほか

【県立図書館】

- レコード鑑賞会 2 講座 5 回、名作映画会 1 講座 4 回等県民公開講座など(21 講座、62 回、1,209 人)

【川崎図書館】

- 映画上映会と映画監督のトークイベント開催等161回、2,379人

* 広報誌、ホームページによる普及啓発の実施【4,24にも掲載】

- 文化芸術に関する公演、催し、講座等の情報誌「KANAGAWA ARTS PRESS」(神奈川県総合文化芸術情報誌)を6回発行。各種公演等の主要な出演者や演出家の紹介記事のほか、文化芸術にかかわる各種情報(「かながわ紙芝居プロジェクト」など)を提供
- ホームページ「かな@(アット)」により、各種公演・展覧会等の情報や文化芸術に関する関心・理解を深めるために役立つ情報を提供

<鑑賞者の意見から>

[県民ホール]

○「季節の風とティータムコンサート」125件(回収率13.4%)から

曲の間のトークがとても楽しかった。(同意見多数)／こうしたレクチャーの企画を期待しています。

[かながわアートホール]

○カジュアルコンサート259件(回収率50.1%)から

クラシックコンサートにはじめて行った。／こぢんまりとしたホールで、身近にオーケストラを聴けてよかった。

[神奈川近代文学館]

○展示室へ配置した調査票への回答875件(年間展示室入館者35,720人)

ビデオライブラリーは展示の理解がさらに深まって良かった。(同意見多数)

2 鑑賞機会の充実

* 神奈川芸術劇場の整備【18】にも掲載

○ 演劇、ミュージカル、ダンス等舞台芸術作品の公演に適した「神奈川芸術劇場」の開設準備

* 県立文化施設での公演事業の実施(主催、共催事業)

[県民ホール] 【11, 16, 18】にも掲載

(大ホール)

○ 「愛の白夜」、「ラ・ボエーム」などオペラ(8演目12回、15,254人)

○ 神奈川フィル特別演奏会などオーケストラコンサート(7演目7回、12,560人)

○ マリンスキー・バレエ「白鳥の湖」などバレエ(8演目11回、16,565人)

○ 吹奏楽(1回、2,000人)

○ 舞踊(1回、1,677人)

(小ホール)

○ パイプオルガンコンサート(12演目12回、3,045人)

○ 「ステイヴン・イッサーリス(チェロ)室内楽プロジェクト2009」など室内楽(15演目15回、4,087人)

○ 「横浜シティオペラ コンサートシリーズ'09」など声楽(4演目4回、1,168人)

○ 「メンデルスゾーン生誕200年記念レクチャーコンサート&コンサート」など講座(5演目5回、638人)

○ 演劇(2演目2回、327人)

(ギャラリー)

○ 「アート・コンプレックス2009」(3演目8公演、1,168人)、「デザインの港 浅葉克己展」など(6事業6展示、18,729人)

(会議室)

○ 「0,1,2才のための人形劇」など(8事業8回、762人)

【音楽堂】 【9, 11, 18】にも掲載

- 「井上道義の『上り坂コンサート』」などオーケストラコンサート(9演目 9回、5,872人、うち1回、164人は公開リハーサル)
- 「マリア・ジョアン・ピリス ピアノコンサート」など器楽(室内楽含む)(9演目 9回、3,379人、うち3演目5回、508人はアウトリーチ)
- 「大野和士のオペラ・レクチャーコンサート」など声楽(5演目 6回、4,220人、うち1回、202人はアウトリーチ)
- 「神奈川県合唱祭」など合唱(7演目 17回、15,467人)
- ダンスカナガワフェスティバルなど舞踊(4演目 5回、3,700人)
- 邦楽(1回、300人)

*** 県立近代美術館での美術作品の展覧会の開催**

【葉山館】

- 「生誕100年 荘司福展」など(5回、39,430人)

【鎌倉館】

- 「シャガールとルドン展」など(5回、53,059人)

【鎌倉別館】

- 「美術館はぼくらの宝箱」など(4回、17,440人)

*** 県立博物館での文化芸術に関する資料等の展示、展覧会の開催 【6】にも掲載**

- 歴史博物館における「横浜開港百五十年 ー神奈川・世界との交流」など(4回、50,805人)
- 金沢文庫における「伊達政宗とみちのく文華」など特別展、企画展(7回(うち1回は前年度から開催)、43,226人)

ほか

*** 県立神奈川近代文学館での文学資料に関する展示、展覧会の開催 【11】にも掲載**

- 「大乱歩展」など特別展(2回、17,673人)
- 「茂田井武展 子どもたちへの贈りもの」など企画展(4回、15,402人)
- 収蔵コレクション展「中村光夫文庫から 没後100年 二葉亭四迷展」(1回、1,186人)
- 「文学の森へ 神奈川と作家たち」展(常設展として三部構成の展覧会を順次他展覧会と同時開催。1月16日~2月28日のみ単独開催、1,459人。)
- 新収蔵資料展(2回、他展覧会と同時開催)

*** 文化芸術団体との連携による鑑賞機会の提供 【9, 11, 13, 18】にも掲載**

- 神奈川フィルへの支援を通じた、同楽団の横浜みなとみらいホールなど県内文化施設での常任指揮者就任披露公演等定期演奏会(9回、13,164人)、アメリカン・クラシックスやスペシャル・オペラ・ガラなどの特別演奏会(19回、19,355人)

ほか

<鑑賞者の意見から>

[県民ホール]

○オペラ「愛の白夜」173件(回収率6.2%)から、同趣旨の複数意見の中から抜粋

プレトークとリハーサル見学でより深く内容を理解することができた。/日本語のオペラを今後も制作して欲しい、誇りに思う、日本語の歌が自然で違和感なく聴けた等、日本オペラ制作への希望。/声が小さい(せりふ部分と思われる)、PAがかかりすぎ等、音響に対する不満。

○オペラ「ラ・ボエーム」214件(回収率8.2%)から、同趣旨の複数意見を掲載

親しみやすかった、興味深かった、新鮮・斬新で良かった、センスが良い、面白かった等、演出・舞台に対する賞賛。/演出が分からない、良くなかった。

[音楽堂]

○オーケストラの公開リハーサル*118件(回収率45.0%)から(教諭・保護者、生徒)

・教諭・保護者の意見から：本物のリハーサルを見るという学びの機会に感謝。私自身も指導を始めてから日が浅く、合奏指導での着眼点や声のかけ方などとても参考になった。生徒も指揮者の指示への反応の仕方や自分たちの意見も伝えることなど多くの発見があったようだ。

※ オーケストラの公開リハーサル：東京交響楽団横浜特別演奏会で中学生を対象に公演を前にしたオーケストラの本格的リハーサルを見学するプログラム。

[神奈川近代文学館]

○中島敦展 154件/展示室入館者5,060人(展示室に調査票配置)

- ・神奈川にゆかりのある作家について深く掘り下げたこの企画展は素晴らしいと思います。
- ・癒しの場として来館させてもらっています。静かでゆっくり見ることができました。

3 県民の文化芸術活動や発表機会の支援

* 県立文化施設での練習・発表等の活動の場の提供【8にも掲載】

- 音楽堂やかながわアートホールなどの音楽活動等の練習や発表の場としての利用(県立音楽堂は、主に合唱や演奏などの発表会やコンクールなどの場として、かながわアートホールは、スタジオは個人の音楽活動等の練習の場、ホールは各種演奏会等の発表の場として、利用)

* 県美術展の開催【9にも掲載】

- 県民の美術等の創作活動の発表機会として、県美術展(第45回)を県立県民ホールギャラリー、厚木市文化会館展示室(巡回展)で開催
応募点数 1,711点(応募者数954人)、入選431点、入賞30点
入場者数 7,897人

* 文化芸術団体の創作・発表等の活動への助成等による支援【5,10にも掲載】

- 広く県民を対象として実施する公演、展示、コンクール、ワークショップ、交流事業等に対して11件の補助、29件の賛助による助成金支援を実施

* 伝統芸能、舞台芸術作品等の公演などへの共催等による支援【5にも掲載】

- 歌舞伎、人形浄瑠璃文楽、地芝居、民俗芸能、相模人形芝居、能・狂言などの伝統芸能、舞台芸術作品等の分野で県民が主体となって活動する団体等と共催で伝統芸能の発表の場、鑑賞の場となる公演事業等を開催(伝統芸能7事業、舞台

芸術等3事業、その他3事業)

* **アマチュア・ミュージシャンなどの発表機会の支援【9にも掲載】**

- アマチュア・ミュージシャン活動支援のため、NPO 法人 ARCSHIP との共催によるコンテスト事業（「Yokohama H000D!!」）の実施）応募総数 134 組、セミファイナル進出 30 組（県立かながわアートホール、1 回、入場者 313 人）、ファイナル進出 12 組（横浜赤レンガ倉庫 1 号館ホール、1 回、入場者 377 人）
- 県内市町村との連携・協力による県内各地のアマチュア・ミュージシャンが一堂に会したコンサート（「カナガワミュージックサミット」の開催、出演 10 組。山下公園特別ステージ、1 回、1,800 人）
- アマチュア・ミュージシャンの活動の場として、県立県民ホール前広場を利用希望者に提供（1 回）

4 文化芸術活動に対する情報の提供

* **文化芸術に関する広報誌の発行【1, 24にも掲載】**

- 文化芸術の鑑賞や県民自らが創作・練習・発表などをする際に必要とする情報の「KANAGAWA ARTS PRESS」（神奈川県総合文化芸術情報誌、年 6 回発行）への掲載、提供

* **ホームページによる公演情報、文化芸術活動のための情報の提供【1, 19, 24にも掲載】**

- ホームページ「かな@」により、各種公演・展覧会等の情報や県民自らが文化芸術活動を行うために役立つ情報を提供
- 県内観光関連情報として、各種イベント、県内産品などのホームページでの情報発信（(社)神奈川県観光協会、アクセス件数 8,719,691 回）、メールマガジン発行（(社)神奈川県観光協会、月 1 回、30,600 件）へ助成

ほか

イ 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

5 伝統芸能の普及啓発、鑑賞・発表機会の提供

* **伝統芸能にかかわるワークショップの実施【12にも掲載】**

相模人形芝居や日本舞踊で学ぶ和の作法、三味線などの和楽器を体感する青少年向けワークショップを開催

- 「相模人形芝居学校交流ワークショップ」 高校 4 校、中等教育学校 1 校で実施（5 回、参加 1,278 人）
- 「日本舞踊に学ぶ和の作法」（県立青少年センター、平塚市中央公民館、鎌倉芸術館・厚木市営東町スポーツセンターで各 1 回、計 4 回、参加計 82 人）
- 「長唄三味線にトライ!」（県立青少年センター、厚木市文化会館で各 1 回、計 2 回、参加計 25 人）

* **県立文化施設等での伝統芸能にかかわる公演の実施、発表機会の確保【3にも掲載】**

- 人形浄瑠璃文楽の公演（県立青少年センター、2 回、1,075 人）

- 県内で地芝居を継承する団体の活動を広く県民に紹介する「神奈川の地芝居フェスティバル」(県立青少年センター、1回、460人)
- かながわを代表する県内各地の民俗芸能を一同に集めた「かながわ民俗芸能大会」(県立青少年センター、1回、568人)
- 相模人形芝居5座(5団体)による相模人形芝居の普及巡回公演(川崎市民プラザ、1回、520人)
- 県内太鼓演奏団体による創作太鼓の演奏会「かながわの太鼓」(秦野市文化会館、1回、1,000人)
- * **能・狂言等鑑賞教室の開催**【12, 13にも掲載】
 - 中・高校生向けの能・狂言入門教室「能・狂言教室」(川崎市教育文化会館、鎌倉女子大学、北鎌倉女子学園で各1回、計3回、2,000人)
 - 小道具や約束事の解説付き歌舞伎鑑賞教室(県立青少年センター、4回、1,775人)
- * **文化芸術団体への支援や連携による発表機会の確保**【3, 10にも掲載】
 - 広く県民を対象として実施する公演、展示、コンクール、ワークショップ、交流事業等に対して11件の補助、29件の賛助による助成金支援を実施
- * **子どもを対象とした民俗芸能フェスティバルの開催**【12にも掲載】
 - かながわこども民俗芸能フェスティバル「れとろびーと2010」(県立青少年センター、八若はやし連ほか3団体出演、1回、580人)

6 文化財保護の充実等

- * **文化財の指定及び指定文化財に対する助成等の実施**
 - 県内の近代化遺産(建造物等)の実態把握調査339件、開発に伴う取扱協議のための試掘調査327試掘坑、28試掘溝
 - 県内の国及び県指定文化財の管理又は修理等への補助金交付53件
 - 県内の国及び県指定文化財の日常的な管理への奨励金交付212件
 - 県内中学生を対象にした「文化財保護ポスター」の募集、ポスター化等による普及啓発 応募843点、入賞44点、ポスター印刷850部、配付先802か所
- * **県立博物館での文化財、伝統芸能等に関する資料の収集、保管、展示**【2にも掲載】
 - 歴史博物館におけるコレクション展「江戸時代の地図・絵地図」
 - 金沢文庫における特別展「伊達政宗とみちのく文華」など
ほか
- * **県ホームページ等による文化財に関する情報の提供**
 - 文化財のホームページによる紹介
 - 子どもから大人まで幅広い世代を対象にした埋蔵文化財を活用した講座等の開催(県埋蔵文化財センター「考古学セミナー」等7事業、7,931人)

ウ 芸術家等の育成等に関する支援等

7 芸術家や文化芸術を支える活動を行う者の育成

* 神奈川文化賞・未来賞等による顕彰の実施【28にも掲載】

- 神奈川文化賞の若手を対象とした未来賞において、作曲家 武智由香氏及び落語家 柳家三三氏を顕彰

* 舞台技術者等の文化芸術を支える者の研修等による育成支援

- 舞台技術者、劇場管理者を志す人を対象とした「かながわ舞台技術ワークショップ」(県立青少年センター、1回(3日間)、延べ96人)
ほか

* 新進芸術家の育成支援の検討

- 創造活動を行う芸術家への支援について、文化芸術振興審議会の部会で「新進芸術家への支援」をテーマとして検討

8 創作のための環境の整備

* 県立文化施設の練習・稽古等での活用【3にも掲載】

- 県立音楽堂や県立かながわアートホールなどの音楽活動等の練習や発表の場としての利用(県立音楽堂は、主に合唱や演奏などの発表会やコンクールなどの場として、県立かながわアートホールは、スタジオは個人の音楽活動等の練習の場、ホールは各種演奏会等の発表の場として、利用)

* 新進芸術家の創作環境支援の検討

- 創造活動を行う芸術家への支援について、文化芸術振興審議会の部会で「新進芸術家への支援」をテーマとして検討

9 創造的活動の成果を発表する機会の確保

* 県美術展の開催【3にも掲載】

- 県民の美術等の創作活動の発表機会として、県美術展(第45回)を県立県民ホールギャラリー、厚木市文化会館展示室(巡回展)で開催
応募点数 1,711点(応募者数954人)、入選431点、入賞30点
入場者数 7,897人

* 文化芸術団体との連携による新進芸術家を起用した演奏会等の開催【2にも掲載】

- 発表機会の少ない新進芸術家に場を提供する「フレッシュコンサート」(神奈川フィル ミューザ川崎、1回、1,051人)
- 「かながわ音楽コンクール」の開催支援 応募者1,406人

* 県立文化施設主催事業における新進芸術家の積極的登用

- 音楽堂の「上り坂コンサート」における若手演奏家(ピアノ 徳永雄紀)の登用(1回、441人)

* 新進芸術家の発表機会支援の検討

- 県立高校を対象に新進芸術家等による音楽会を開催する「多機能型音楽活動(大学発・政策提案)」を平成22・23年度開催

* ストリート・ミュージシャン等アマチュア・ミュージシャンなどの発表機会の支援

【3にも掲載】

- アマチュア・ミュージシャン活動支援のため、NPO 法人 ARCSHIP との共催によるコンテスト事業（「Yokohama H00D!!」の実施）応募総数 134 組、セミファイナル進出 30 組（県立かながわアートホール、1 回、入場者 313 人）、ファイナル進出 12 組（横浜赤レンガ倉庫 1 号館ホール、1 回、入場者 377 人）
- 県内市町村との連携・協力による県内各地のアマチュア・ミュージシャンが一堂に会したコンサート（「カナガワミュージックサミット」の開催、出演 10 組。山下公園特別ステージ、1 回、1,800 人）
- アマチュア・ミュージシャンの活動の場として、県立県民ホール前広場を利用希望者に提供（1 回）

エ 文化芸術団体の育成等

10 文化芸術団体の育成・支援、連携・協働の推進

* 文化芸術団体への助成等による支援【3, 5にも掲載】

- 広く県民を対象として実施する公演、展示、コンクール、ワークショップ、交流事業等に対して11件の補助、29件の賛助による助成金支援を実施

* 文化芸術団体の活動に対する後援【3, 5にも掲載】

- 地域文化への振興への寄与、創造性などのある事業、コンクール等に対し、後援131件、知事賞交付77件

* 県実施事業等における文化芸術団体との連携・協働の推進【13にも掲載】

- NPOと協働し、県内公私立小・中学校、公立特別支援学校にアーティストを派遣し、直接体験や五感を使った活動などにより、コミュニケーション能力など豊かな人間性をはぐくむ、「アートを活用した教育活動事業」（5校。17クラス 630人、2コース 30人の児童・生徒を対象に実施）
- 県立高校における特色ある県立高校づくりとして、NPO、劇団から講師派遣を受け実施した演劇教育の実践研究（2校 延べ72人受講）及び演劇教育実践研究に係るアーティスト派遣による授業（4校 延べ63人受講）

ほか

* 文化芸術団体相互の連携の促進

- 複数市の代表を招待した野外音楽コンサート「かながわミュージックサミット」開催（出演 10 組。山下公園特別ステージ、1 回、1,800 人）

ほか

オ 子どもの文化芸術活動の充実

11 文化芸術の鑑賞機会の提供

* 県立文化施設での子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施

【県民ホール】 【2にも掲載】

- パイプオルガンの仕組みや特徴の説明と演奏を組み合わせた親子向け「パイプオルガン・夏休み子どもスペシャル」（1 回、272 人）

【音楽堂】 【2にも掲載】

- 夏休み期間に子どもを対象とした参加型のコンサート「子どもと楽しむ夏・県立音楽堂 藤原真理チェロ・コンサート」（1 回、480 人）

ほか

* 文化芸術団体との連携による子どもたちを対象とした音楽体験事業等の実施

- 神奈川フィルによる小学校、特別支援学校での演奏会(音楽鑑賞教室31回 51,900人、ボランティア演奏会21回 2,820人) 【2,13にも掲載】

* 県立神奈川近代文学館での児童文学を題材とした展覧会等の実施【2にも掲載】

- 児童雑誌を舞台に数多くの挿絵や童画を発表した画家、「茂田井武展 子どもたちへの贈りもの」(観覧者4,118人)
- 子ども向け映画会(「ピーターと狼」など3回、171人)

ほか

<鑑賞者の意見から>

[県立県民ホール]

- 「パイプオルガン夏休み子どもスペシャル」46件(回収率16.9%)から

・楽器の説明、体験もあり、なかなか接することのないものなので、演奏はもちろん、親子でとても楽しめた。

12 文化芸術活動の体験機会の充実

* 文化芸術団体との連携・協働による子どもたちの文化芸術活動の推進【5,13にも掲載】

- 中・高校生向けの能・狂言入門教室「能・狂言教室」(川崎市教育文化会館・鎌倉女子大学・北鎌倉女子学園で各1回、計3回、2,000人)

* 県立青少年センター、藤野芸術の家での文化芸術を体験する機会の提供

[県立青少年センター]

- 「かながわ人形劇フェスティバル」(鑑賞会1回、入場者数延べ486人)
- 演劇(鑑賞会1回、ミュージカル「火の鳥～鳳凰編～」入場者数593人)
- ダンス(入門編として青少年向けのものを選定、鑑賞会1回、入場者数386人)
- 県内の小・中・高等学校を対象に技術支援を含め、演劇及びダンスの発表会を実施(5回、出演92校、入場者数延べ5,573人)
- 県内の中・高等学校等の生徒、指導者を対象に演劇及びダンスの講習会を実施(4回、参加者数延べ2,953人)

ほか

[藤野芸術の家]

- 陶芸体験、弦楽五重奏コンサートなど(常設5事業 44,224人、その他6事業 11回、485人)

* 伝統芸能ワークショップの実施【5にも掲載】

相模人形芝居や日本舞踊で学ぶ和の作法、三味線などの和楽器を体感する青少年向けワークショップを開催

- 「相模人形芝居学校交流ワークショップ」 高校4校、中等教育学校1校で実施(5回、参加1,278人)
- 「日本舞踊に学ぶ和の作法」(県立青少年センター・平塚市中央公民館・鎌倉芸

術館・厚木市営東町スポーツセンターで各1回、計4回、参加計82人)

- 「長唄三味線にトライ!」(県立青少年センター・厚木市文化会館で各1回、計2回、参加計25人)

* 県立神奈川近代文学館での子どもたちが読書に親しむための事業の実施

- 子ども向け読み聞かせ会(「絵本であそぼ!」など3回、参加計222人)

* 子どもを対象とした民俗芸能フェスティバルの開催【5】にも掲載

- かながわこども民俗芸能フェスティバル「れとろびーと2010」(県立青少年センター、八若はやし連ほか3団体出演、1回 入場者数580人)

カ 学校教育における文化芸術活動の充実

13 文化芸術に関する体験学習等の充実

* 文化芸術団体との連携による音楽体験事業等の実施【2, 11】にも掲載

- 神奈川フィルによる小学校、特別支援学校での演奏会(音楽鑑賞教室31回 51,900人、ボランティア演奏会21回 2,820人)

* 能・狂言等鑑賞教室の開催【5, 12】にも掲載

- 中・高校生向けの能・狂言入門教室「能・狂言教室」(川崎市教育文化会館、鎌倉女子大学、北鎌倉女子学園で各1回、計3回、2,000人)

* 本物の舞台芸術体験事業・学校への芸術家等派遣事業(文化庁事業)の県内での展開

- 子どもたちに成長過程に合わせた優れた舞台芸術の鑑賞機会とともに、芸術団体等によるワークショップ、さらには共演を図るなどして、舞台芸術をより身近に直接触れる機会を提供(本物の舞台芸術体験事業21件、参加延べ9,682人、学校への芸術家等派遣事業70件、参加延べ19,318人)

* 伝統文化こども教室事業(文化庁事業)の県内での展開

- 子どもたちに対し、学校、文化施設等を拠点とし、民俗芸能、工芸技術、邦楽、日本舞踊、武道、茶道、華道など伝統文化に触れる機会を提供する団体の事業に対し助成(168件、参加3,630人)

* 高校文化部活動の充実・支援の実施

- 写真、郷土芸能、軽音楽など8分野で述べ95校の生徒(延べ593人)、教員(延べ53人)を対象に研修会などを実施

ほか

* 県高等学校総合文化祭の開催【15】にも掲載

- 県内各地で合唱大会、美術展など分野ごとに32件実施、43,995人の生徒が参加

* 県立高校における文化芸術にかかわる科目等の充実及び文化芸術の発展に寄与する人材の育成

- 我が国の伝統文化に関する教育について、教育課程への位置づけ、指導方法等についての講演会等の実践研究(茶道について1校、大山信仰に関連した芸能・行事・文化について1校、計2校で実施)

ほか

- 芸術科の設置等(弥栄高校など)

*** 伝統音楽に関する指導者ワークショップの実施**

- 日本の伝統音楽の素晴らしさを的確に伝えることができる指導者を養成するための「伝統音楽人材指導者養成ワークショップ」（「総合型伝統音楽ワークショップ」（相模女子大中学部文化ホール、1回、受講者27人）及び「箏演奏指導者育成のための実技ワークショップ」（県立湘南高校音楽室、1回、受講者24人）

*** 芸術家等や文化芸術団体と連携した教育の実施【10にも掲載】**

- NPOと協働し、県内公私立小・中学校、公立特別支援学校にアーティストを派遣し、直接体験や五感を使った活動などにより、コミュニケーション能力など豊かな人間性をはぐくむ、「アートを活用した教育活動事業」（5校、17クラス 630人、2コース 30人の児童・生徒を対象に実施）
- 県立高校における特色ある県立高校づくりとして、NPO、劇団から講師派遣を受け実施した演劇教育の実践研究（2校 延べ71人受講）及び演劇教育実践研究に係るアーティスト派遣による授業（4校 延べ63人受講）

*** 学校と文化施設との連携の推進**

- 横浜市内小学校での音楽のアウトリーチ（県立音楽堂実施、2回、3校、参加340人）、コンサート会場へ足を運ぶことが困難な県立養護学校の子どもたちへの鑑賞機会の提供（「県立音楽堂 ふれあいアウトリーチ」6回、6校、参加813人）
- 県立高校図書館での文学パネル展開催（県立神奈川近代文学館実施、5校、入場者数7,092人）

ほか

<事業参加者の意見から>

[県立音楽堂]

- ふれあいアウトリーチ実施2校のうち1校 38件（回収率95.0%）から（教諭・生徒）
 - ・ 教諭の意見から：楽器の説明や曲の紹介もとてもわかりやすく、生徒にとっても親しみやすいものになったと思う。時間が本当にあっという間に経ってしまい、もっと聴きたかったという生徒や教員の声をたくさん耳にしました。（同意見多数）

キ 高齢者、障害者等の文化芸術活動の充実

14 高齢者、障害者等の文化芸術活動の充実

*** 美術展など高齢者を対象とした文化芸術事業の実施**

- 高齢者の文化活動の成果を発表する機会「かながわシニア美術展」（県立県民ホール 出品者672人、入場者1,936人）、「かながわシニア短歌大会」（応募1,509人、表彰77人）

*** 県立施設における文化芸術活動の場の提供などによる障害者の自主的な活動の支援**

- ライトセンターでの文科系クラブ活動

ほか

(2) 文化資源を活用した地域づくりの推進

ア 文化芸術に関する交流の推進

15 地域間交流の推進

* 他県との文化芸術を介した交流の推進

- 島田市博物館(静岡県)「上野誠の世界」展に上野誠の作品30点を提供(県立近代美術館)
- 富山県出身の作家堀田善衛の展覧会パッケージを同県高岡市美術館へ提供(県立神奈川近代文学館)

ほか

* 国民文化祭への県内文化芸術団体の参加促進

- 第24回国民文化祭・しずおか2009の「お雛子の祭典」、「人形劇フェスティバル」などへ20団体、338人が参加

* 全国高等学校総合文化祭への参加

- 第33回全国高等学校総合文化祭三重大会へ、延べ112校、延べ生徒数670人が参加

* 県高等学校総合文化祭の開催【13にも掲載】

- 県内各地で合唱大会、美術展など分野ごとに32件実施、43,995人の生徒が参加

16 国際交流の推進

* 国際児童画展の開催

児童の国際理解と国際交流推進のため、県内及び世界各国から児童画を募集し展覧会を開催(第15回ビエンナーレ国際児童画展 応募総数20,723点(外国応募16,863点、県内応募3,860点)入賞作品520点地球市民かながわプラザほか県内16会場で巡回展開催、総入場者9,828人)

* 海外の友好交流都市等との文化芸術を介した交流事業の実施

—

* 海外の最高水準の舞台芸術作品の県立文化施設での公演や展覧会の実施【2にも掲載】

- レニングラード国立歌劇場オペラ プッチーニ「トスカ」(県立県民ホール 1回 1,429人)、マリンスキー・バレエ「白鳥の湖」(県立県民ホール 2回 2,331人)

ほか

17 多文化理解の推進

* 「あーすフェスタかながわ」など多文化理解や交流を推進するための事業の実施

- 「多文化共生」をテーマにした、シンポジウム、民族芸能ステージ、ワークショップ、世界屋台村などによる「あーすフェスタかながわ」(会場 地球市民かながわプラザ 1回、2日、約20,000人)

ほか

* 地球市民かながわプラザ等での多文化理解を推進するための講座等の実施

- 世界の絵本展覧会、民族楽器のワークショップなど、参加者が文化の多様性の

持つ豊かさを実感し、多文化共生・異文化理解を深めるきっかけを作る「ワールドカルチャー・デイ」を実施(12回、2,416人)

- プラザに来館することが難しい小学校に出向き、写真パネルや民族衣装、楽器を使ったワークショップなどのプログラム「あーすキャラバン隊」(県内8小学校、799人)

ほか

*** 湘南国際村における国際人材育成等に関する事業の実施**

- 県内大学等の参画のもと、学部生・院生を対象にインターカレッジ方式で日本とアジアの政治・経済・文化を主題にした若手国際人材育成セミナー「湘南国際村インカレ国際セミナー」(83人)
- 県内高校の国際教育の推進を支援するため、高等学校に講師を派遣し、幅広い観点から国際社会で生きる力を養う「湘南国際村高校生国際教育支援事業」(20校、2,403人)

ほか

イ 創造的活動等の推進

18 創造的活動の推進と発信

*** 県立文化施設における新たな舞台芸術作品等の創造・発信**

【県民ホール】 【2にも掲載】

- 芸術総監督一柳慧氏作曲創作オペラ「愛の白夜」〈改訂決定版〉(2回 2,804人)、びわ湖ホールとの共同制作オペラ「ラ・ボエーム」の上演(2回 2,617人)
- 神奈川芸術劇場の施設整備、開設準備を進めるとともに、劇場のあり方を、同劇場の芸術監督に就任する宮本亜門氏と語り合うタウンミーティング(意見交換会)の3会場での開催(横浜267人、川崎101人、小田原208人、計576人)

<宮本亜門氏タウンミーティング(意見交換会)での参加者の意見から>

参加者576人(横浜267人、川崎101人、小田原208人)

- ・子ども向けのプログラムやワークショップなどを工夫してほしい。
- ・舞台芸術に興味はあるが、もう一步劇場に踏み込めない人たちを引き込む仕掛けを考えてほしい。

【音楽堂】 【2にも掲載】

- オーケストラ(神奈川フィル)とジャズピアニスト(山下洋輔氏)との共演により、一柳慧氏の最新ピアノ協奏曲を世界初演した企画公演「クラシックな休日を♪in音楽堂～祝祭編」(1回 882人)、古典聲明をベースに新進作曲家武智由香氏の創作曲を組み込んで構成した「音楽堂で聴く聲明 西行マンダラ」(1回 894人)などの公演事業

*** 文化芸術団体・芸術系大学等との連携による先駆的で発信性の高い文化芸術の創造**

- 横浜赤レンガ倉庫との共催による異分野のアーティストの交流やアートの融合を目指した「横浜発 ー鏡像」(赤レンガ倉庫1号館ホール、芥川賞作家・多和田葉子氏とジャズピアニスト・高瀬アキ氏ほかによる「港」を巡る言葉遊びを散りばめたテキストを軸に展開する、朗読・音楽・ダンスのコラボレーション。2回、373人。)

*** 新進芸術家等への支援の検討【7にも掲載】**

- 創造活動を行う芸術家への支援について、文化芸術振興審議会の部会で「新進芸術家への支援」をテーマとして検討

ウ 文化資源の活用

19 文化資源を活用した地域の活性化

*** 相模湾沿岸をはじめとした地域に残る近代建造物と邸園を保全・活用した地域づくりの推進**

- 民間による歴史的建造物や邸園の保全活用の取組み支援のための地域づくりを推進する専門家「邸園(歴史的建造物)保全活用推進員」の養成(32人)
- 歴史的建造物を会場に、コンサート、見学会などを開催する「湘南邸園文化祭」(「旧里見弴邸で聞く18世紀のフォルテピアノコンサート」(鎌倉市)、「昔の葉山の絵はがきツアー」(葉山町)など38事業、参加者26,823人)

*** 県西地域の豊かな自然環境や歴史的・文化的遺産などを活用した花と水の交流圏づくり等の推進**

- 「花と水の交流圏」の観光魅力の圏域内外へ向けた情報発信として「かながわWEST花と水の交流圏」(ホームページ、アクセス件数200,285件)、「花と水の交流圏ガイドマップ」「花と水の交流圏通信(季刊紙)」の発行
- 寺社めぐり、鎌倉幕府開運街道等回遊ルートの整備や公園等観光・交流スポットの整備など施設整備への市町村補助(15事業)

ほか

*** 鎌倉の世界文化遺産登録の推進**

- 「推薦書原案」の作成や国際専門家会議の開催など「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録の早期実現に向けた取組みの推進

*** 地域に伝承されてきた文化等の発掘・発信・体験の促進**

- 足柄上地域の地域文化などの伝承、体験型観光などを通じた地域ブランドとしての「あしがらの里」の形成と普及(「地域資源モニターツアー」「地域資源担い手講座」など7事業、約330人参加のほか、ホームページ、メールマガジンによるプロモーション)

ほか

*** 県立文化施設の地域のにぎわい創出等への活用**

- 神奈川芸術劇場の開設を推進

- * ホームページ等による、県内の伝統的な行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報の発信【4, 24にも掲載】
 - 県内観光関連情報として、各種イベント、県内産品などのホームページでの情報発信((社)神奈川県観光協会、アクセス件数8,719,691回)、メールマガジン発行((社)神奈川県観光協会、月1回、30,600件)へ助成
ほか
- * 地域の産品の普及、伝統的工芸品の製品フェア開催など文化資源の普及、育成
 - 伝統的工芸品の後継者育成事業への助成「挽物技術の若手人材養成事業(小田原漆器、述べ331人)」、「技術者の能力向上のための研修(箱根寄木細工、述べ331人)」
 - 足柄茶のおいしさ、伝統的な茶文化の再発見を通して、ブランド力向上、消費拡大を図るため、「足柄うまみ茶 花里(はなり)の雫(しずく)」(茶器に直接茶葉を入れ低温の湯を少量注ぎ、薫りと旨みを楽しむ飲み方)の試飲イベント(箱根ラリック美術館など県内18か所、39回の試飲会等)、産地などを訪ねる足柄茶体験ツアー(4回、124人)及び緑茶あじわい教室(箱根町、南足柄市などの小中高等学校6校で児童・生徒を対象に11回、301人)等「足柄茶ブランド力強化支援事業」の実施
- * フィルムコミッション活動支援事業の推進
 - 県観光振興対策協議会における研修会、(社)神奈川県観光協会ホームページ内に県内フィルムコミッションのリンク集のページを作成

エ 景観の形成

20 良好な景観の形成

- * 「神奈川景観づくり基本方針」に基づく魅力ある景観づくりの推進
 - 県内の海沿いの市町が景観計画等により景観形成を推進する際の方向性を示した「なぎさ軸広域景観構想」の策定
 - 市町村の景観施策への取組み支援のため景観に関する知識を有する専門家を派遣(南足柄市、三浦市など10市町の景観シンポジウムなど13事業へ派遣)
- * 文化財保護法に基づく重要文化的景観の選定に係る検討
—
- * 歴史まちづくり法等に基づく関連文化財所在市町村への助言
—

(3) 文化芸術の振興を図るための環境整備

ア 学校施設、公共的施設の活用等

21 公共的施設等の活用

- * 学校施設、公共的施設の文化芸術活動の練習、稽古、発表の場としての活用
 - 県立高等学校の陶芸室を活用した陶芸教室の実施など
 - 県立音楽堂、県立かながわアートホールの音楽活動等の練習、発表の場としての利用

イ 県立文化施設の充実

22 県立文化施設の機能の充実

- * 文化施設の特성에応じた芸術家等の人材育成、教育プログラム、アウトリーチ等の実施
 - 県民ホール小ホール、会議室におけるアートマネジメント講座開催(5回、458人)
 - 音楽堂主催のアウトリーチの実施(4演目、6回、710人)
ほか
- * 文化施設における参加体験型(ワークショップ)事業の実施
 - 舞台技術者、劇場管理者を志す人を対象とした「かながわ舞台技術ワークショップ」(県立青少年センター、1回(3日間)、延べ96人)
ほか
- * 文化施設の整備による施設機能の向上
 - 県民ホール(本館)再整備の検討

23 運営方法の点検等

- * 施設利用者を対象としたアンケート調査の実施
 - 県立県民ホールほか各文化施設で実施

※ 以下、数値の端数処理のため、回答合計が100%ではない場合があります。

[県民ホール] 「平成21年度神奈川県民ホール利用者満足度調査」概要

○ 実施時期	平成21年12月1日～12月31日				
○ 実施方法	調査票の館内配置(主催事業・共催事業)				
○ 有効回収数	416件				
○ 結果概要					
・ 催しの内容	良い78%	普通 7%	良くない1%	無回答13%	
・ 料金	安い35%	適正44%	高い 9%	無回答11%	
・ 催しもの総合評価	良い65%	普通 8%	よくない 1%	無回答26%	
・ 施設総合評価	良い64%	普通17%	良くない3%	無回答16%	

[音楽堂] 「平成21年度神奈川県立音楽堂利用者満足度調査」概要

○ 実施時期	平成21年12月1日～12月27日				
○ 実施方法	調査票のちらしへのはさみ込み・館内配置(主催事業・共催事業)				

- 有効回収数 80件
- 結果概要
 - ・ 催しの内容 良い90% 普通 4% 良くない 0% 無回答 6%
 - ・ 料金 安い79% 適正16% 高い 1% 無回答 4%
 - ・ 催しもの総合評価 良い61% 普通 6% 良くない 0% 無回答33%
 - ・ 施設総合評価 良い63% 普通20% 良くない 3% 無回答15%

[かながわアートホール] 「平成21年度神奈川県立かながわアートホール利用者満足度調査」
概要

- 実施時期 平成21年12月1日～12月27日
- 実施方法 調査票のちらしへのはさみ込み・館内配置(主催事業・共催事業)
- 有効回収数 12件(調査期間中の主催事業・共催事業は1事業、25人)
- 結果概要
 - ・ 催しの内容 良い33% 普通33% 良くない 0% 無回答33%
 - ・ 催しもの総合評価 良い42% 普通33% よくない 0% 無回答25%
 - ・ 施設総合評価 良い83% 普通17% 良くない0% 無回答 0%

[近代美術館] 「珠玉のコレクション 美術館はぼくらの宝箱 子どもたちの視点が見られるもの」展アンケート概要(鎌倉別館)

- 実施時期 平成21年6月6日～9月6日
- 実施方法 館内配置
- 有効回収数 47件
- 結果概要(良い5～悪い1の5段階評価)
 - ・ 展覧会の内容 5:32% 4:32% 3:13% 2: 6% 1: 2% 無回答:15%
 - ・ 美術館全体の印象 5:49% 4:17% 3: 4% 2: 9% 1: 6% 無回答:15%

[神奈川近代文学館] 「神奈川近代文学館利用者満足度調査 平成21年度分」概要

- 実施時期 平成21年10月3日～11月15日
- 実施方法 調査票の館内配置(展覧会「大乱歩展」)
- 有効回収数 230件
- 結果概要
 - ・ 分かりやすさ 良い68% 普通28% 悪い 2% 無回答 2%
 - ・ 料金 良い64% 普通29% 悪い 3% 無回答 5%
 - ・ 全体評価(展覧会) 良い78% 普通19% 悪い 1% 無回答 2%
 - ・ 全体評価(施設・設備) 良い44% 普通29% 悪い 1% 無回答27%

[歴史博物館] 「特別展『横浜開港百五十年』記念講演会」参加者アンケート概要

- 実施時期 平成21年5月31日
- 実施方法 参加者64人へのアンケート
- 有効回収数 60件
- 結果概要
 - ・ 受講した感想
 - 満足 63% どちらともいえない22% 不満 7% 無回答 8%
 - ・ 講演会の内容
 - 分かりやすい60% どちらともいえない27% 難しい 7% 無回答 7%

- * 施設運営会議等による施設運営や実施事業の点検・検証

- * 施設運営全般についてのモニタリングの実施

- 県立県民ホールほか各指定管理施設で実施

ウ 情報通信技術の活用

24 情報の発信

- * ホームページや電子メールを活用した文化芸術情報の提供【1, 4にも掲載】

- ホームページ「かな@(アット)」により、各種公演・展覧会等の情報や文化芸術に関する関心・理解を深めるために役立つ情報を提供
- 県内観光関連情報として、各種イベント、県内産品などのホームページでの情報発信((社)神奈川県観光協会、アクセス件数 8,719,691 回)、メールマガジン発行((社)神奈川県観光協会、月1回、30,600件)へ助成
ほか

- * 保存資料等の検索・閲覧等に関する情報通信技術の活用

- インターネットによる県立神奈川近代文学館の蔵書検索システムの運営(アクセス件数38,147件)
ほか

25 利便性の向上

- * 施設利用予約システムの運用

- 県内公共施設のインターネットによる予約システムの運営(利用件数706,373件)

26 文化芸術にかかわる資料、作品、情報等の保存

- * 県立文化施設等における収蔵資料等のデジタル化、データベース化の推進

- 神奈川近代文学館の特別資料(原稿、自筆資料、書簡等)のデータベース化(新たに7,319件を加え、約16万7千点をデータベース化。インターネット検索可能。)
ほか

エ 文化芸術活動に対する支援の促進

27 文化芸術活動に対する個人や企業等からの寄附や支援の促進

- * 寄附税制等に関する周知

- * 文化芸術団体への寄附の促進

- * メセナ企業等に関する情報の提供

- * メセナ企業と芸術家とを結び付ける方策の検討

オ 顕彰の実施

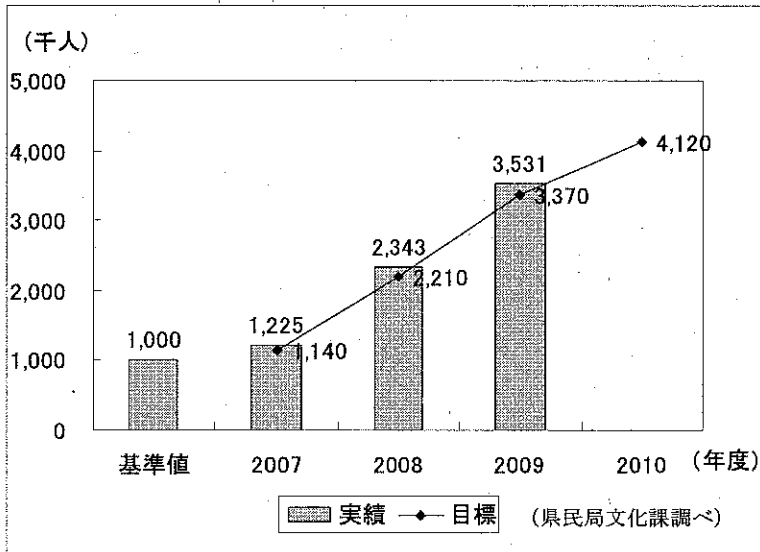
28 顕彰の実施

* 神奈川文化賞・未来賞等による顕彰の実施【7にも掲載】

- 神奈川文化賞において、絵本作家 加古里子氏、俳人 鷹羽狩行氏、彫刻家 湯原和夫氏、(社)企業メセナ協議会会長 福原義春氏を顕彰
- 神奈川文化賞の若手を対象とした未来賞において、作曲家 武智由香氏及び落語家 柳家三三氏を顕彰

2 進行管理のための参考指標

・ 県立文化施設※利用者数(累計)



(「神奈川力構想 白書2009」)

※「県立文化施設」：県民ホール・音楽堂・かながわアートホール・青少年センター・近代美術館・近代文学館

- 県立文化施設における鑑賞者及び利用者は増加している(2009年度(平成21年度)までの累計値は、目標値3,370千人に対し実績値は3,531千人)。

・ 文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度(全県)

質問項目	生活重要度		生活満足度	
	重要	重要でない	満たされている	満たされていない
文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること	52.7%	11.9%	21.1%	23.2%
自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること	71.9%	6.7%	15.3%	42.2%
自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくりが進んでいる	64.6%	5.7%	17.8%	19.0%

(平成21年度県民ニーズ調査)

- 文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識は高いが、満足度は低い。

平成21年度県民ニーズ調査

調査地域 神奈川県全域
 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女(外国籍県民を含む)3,000人
 抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出 外国人登録原票からの単純無作為抽出
 調査方法 郵送による配布及び回収
 調査期間 平成21年8月21日～9月14日(毎年実施)
 回収結果 有効回収数 1,442(有効回収率 48.1%)

・ 文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度(地域別)

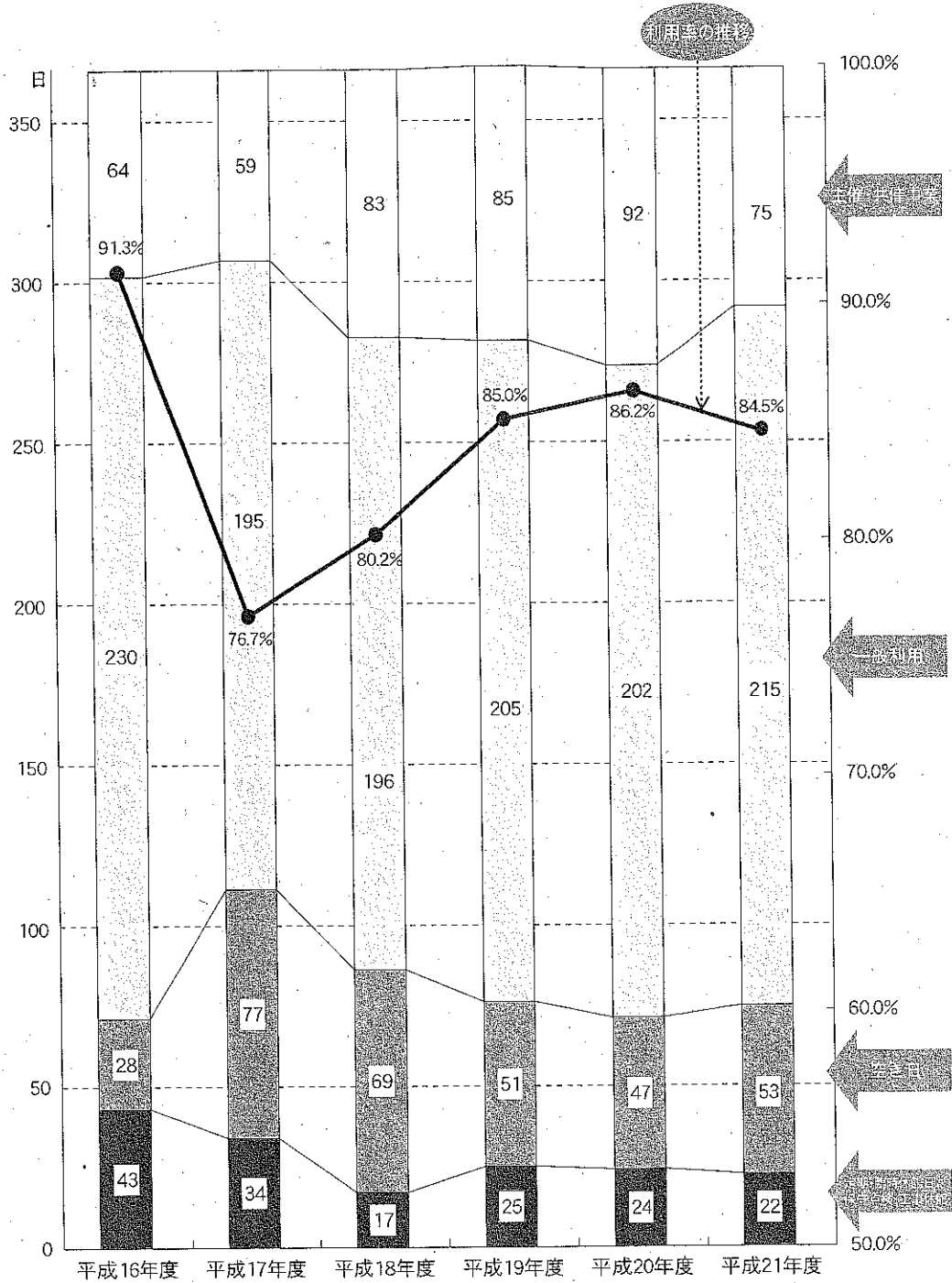
文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること

居住地域別	全 体	非 常 に 重 要 で あ る	か な り 重 要 で あ る	ど ち ら と も い え な い	さ ほ ど 重 要 で な い	ま っ た く 重 要 で は な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	1442 100.0	183 12.7	573 39.7	460 31.9	155 10.7	18 1.2	26 1.8	27 1.9
横浜	542 100.0	71 13.1	214 39.5	177 32.7	55 10.1	8 1.5	8 1.5	9 1.7
川崎	198 100.0	31 15.7	77 38.9	54 27.3	24 12.1	2 1.0	8 4.0	2 1.0
横須賀三浦	128 100.0	18 14.1	57 44.5	30 23.4	14 10.9	2 1.6	1 0.8	6 4.7
県央	158 100.0	16 10.1	58 36.7	55 34.8	20 12.7	1 0.6	3 1.9	5 3.2
湘南	227 100.0	23 10.1	88 38.8	80 35.2	30 13.2	2 0.9	2 0.9	2 0.9
足柄上	28 100.0	2 7.1	9 32.1	14 50.0	2 7.1	0 0.0	0 0.0	1 3.6
西湘	44 100.0	7 15.9	20 45.5	11 25.0	3 6.8	2 4.5	1 2.3	0 0.0
県北	111 100.0	13 11.7	50 45.0	35 31.5	7 6.3	1 0.9	3 2.7	2 1.8
無 回 答	6 100.0	2 33.3	0 0.0	4 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

居住地域別	全 体	十 分 満 た さ れ て い る	か な り 満 た さ れ て い る	ど ち ら と も い え な い	い あ ま り 満 た さ れ て い な い	ほ と ん ど 満 た さ れ て い な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	1442 100.0	26 1.8	279 19.3	622 43.1	250 17.3	85 5.9	138 9.6	42 2.9
横浜	542 100.0	11 2.0	103 19.0	219 40.4	108 19.9	31 5.7	53 9.8	17 3.1
川崎	198 100.0	2 1.0	45 22.7	82 41.4	28 14.1	13 6.6	23 11.6	5 2.5
横須賀三浦	128 100.0	3 2.3	28 21.9	53 41.4	21 16.4	6 4.7	12 9.4	5 3.9
県央	158 100.0	2 1.3	25 15.8	76 48.1	24 15.2	9 5.7	16 10.1	6 3.8
湘南	227 100.0	4 1.8	42 18.5	107 47.1	39 17.2	13 5.7	17 7.5	5 2.2
足柄上	28 100.0	1 3.6	4 14.3	15 53.6	6 21.4	2 7.1	0 0.0	0 0.0
西湘	44 100.0	1 2.3	5 11.4	16 36.4	8 18.2	5 11.4	8 18.2	1 2.3
県北	111 100.0	2 1.8	27 24.3	51 45.9	14 12.6	5 4.5	9 8.1	3 2.7
無 回 答	6 100.0	0 0.0	0 0.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0

地域	市町村
横浜	横浜市
川崎	川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
足柄上	南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町
西湘	小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町
県北	相模原市

県立文化施設の利用率 県民ホール 大ホール



利用可能日数	322日	331日	348日	341日	341日	343日
実利用日数 (自主・共催含む)	294日	254日	279日	290日	294日	290日
実利用日数 (一般のみ)	230日	195日	196日	205日	202日	215日

<グラフの見方>

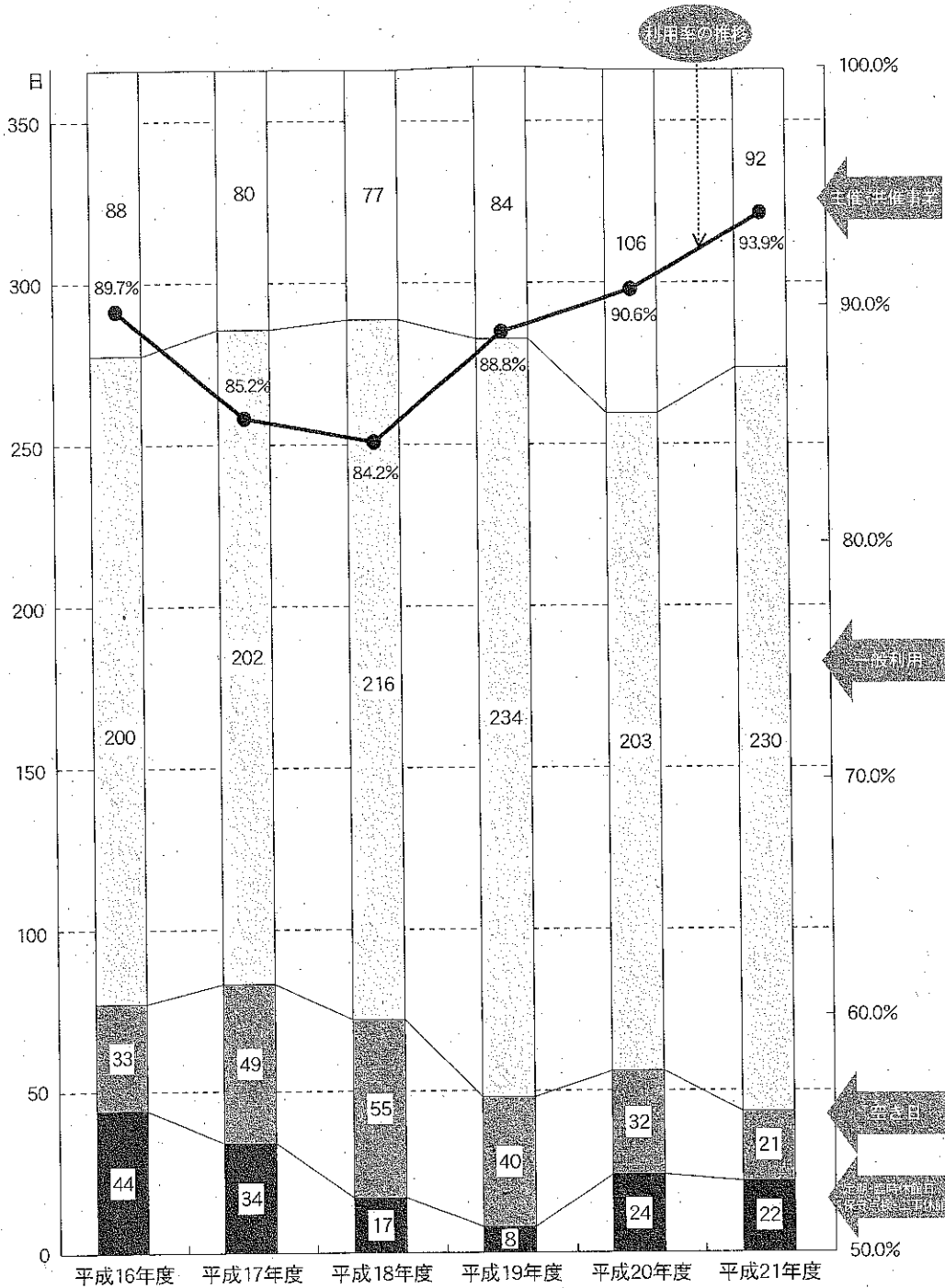
*棒グラフ：利用の内訳日数 <目盛はグラフの左側>

*折れ線グラフ：利用率 <目盛はグラフの右側>

(「平成21年度 県民ホール年報」)

○ 利用率84.5%、前年比-1.7%であった。

・ 県立文化施設の利用率 県民ホール 小ホール



利用可能日数	321日	331日	348日	358日	341日	343日
実利用日数 (自主・共催含む)	288日	282日	293日	318日	309日	322日
実利用日数 (一般のみ)	200日	202日	216日	234日	203日	230日

<グラフの見方>

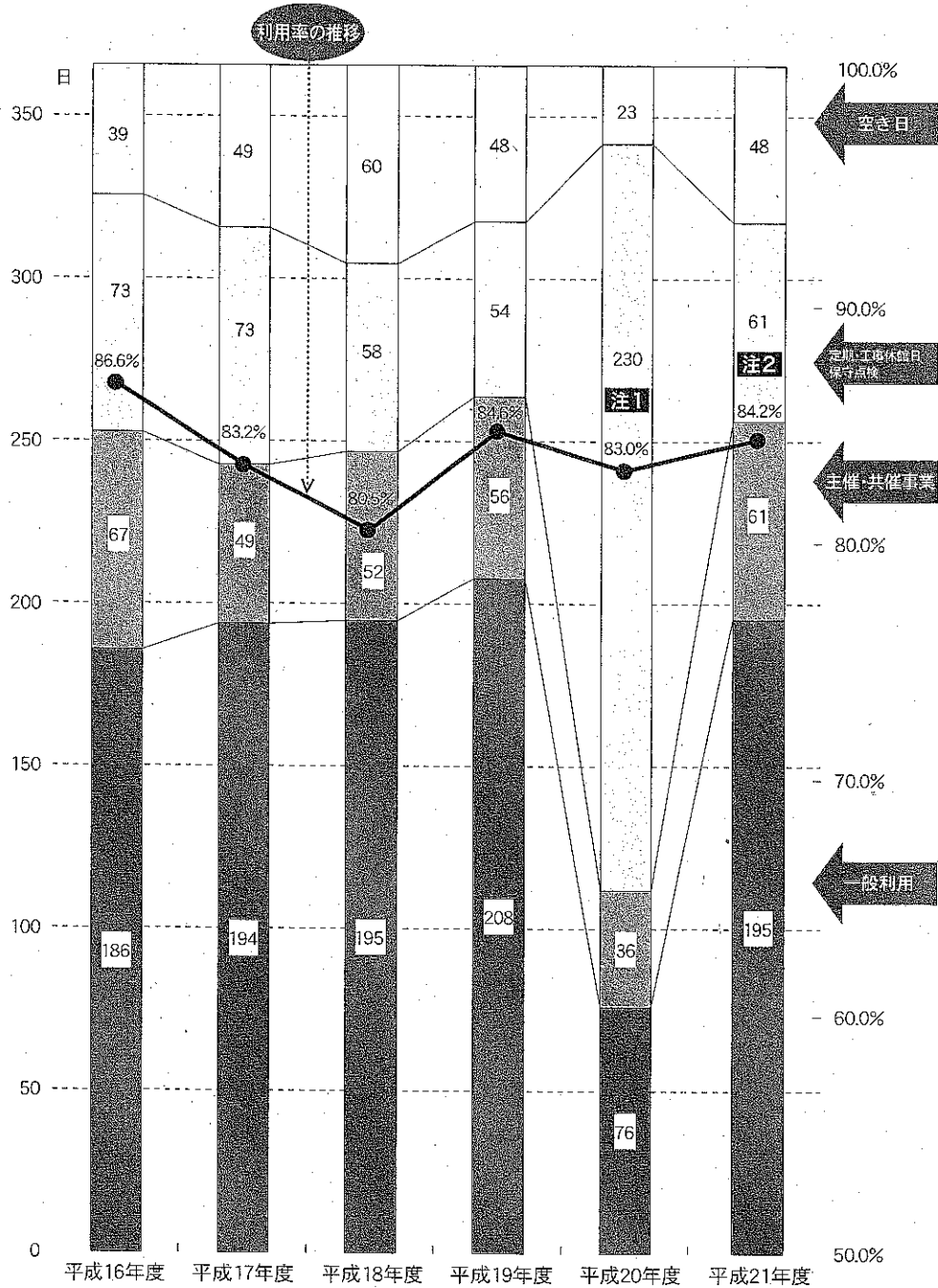
*棒グラフ：利用の内訳日数 <目盛はグラフの左側>

*折れ線グラフ：利用率 <目盛はグラフの右側>

(「平成21年度 県民ホール年報」)

○ 利用率93.9%、前年比+3.3%であった。

県立文化施設の利用率 音楽堂



利用可能日数	292日	292日	307日	312日	★135日	☆304日
実利用日数 (自主・共催含む)	253日	243日	247日	264日	112日	256日
実利用日数 (一般のみ)	186日	194日	195日	208日	76日	195日

注1・★平成20年度は138日間のみ開館、後半212日間は耐震補強工事のため休館。

注2・☆平成21年度は17日間(4月17日まで)は耐震補強工事のため休館。

<グラフの見方>

*棒グラフ：利用の内訳日数<目盛はグラフの左側>

*折れ線グラフ：利用率<目盛はグラフの右側>

(「神奈川県立音楽堂 平成21年度年報」)

- 学校行事での貸館が多いことなどから新型インフルエンザ流行の影響があったが、利用率は前年度水準の84.2%であった。

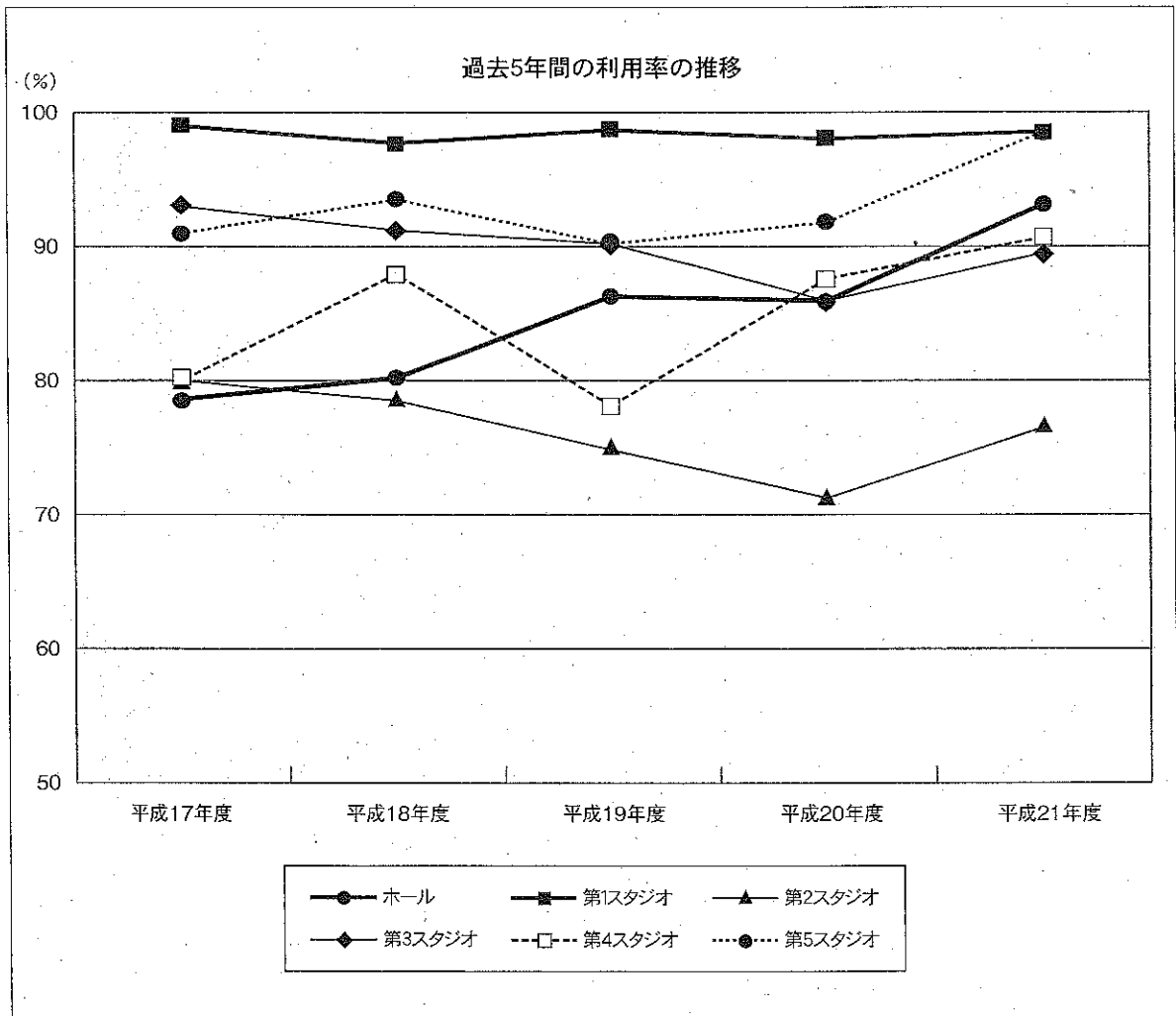
・ 県立文化施設の利用率 かながわアートホール

利用日数・利用率

(日・%)

	開館日数	利用施設の内訳																							
		ホール				第1スタジオ				第2スタジオ				第3スタジオ				第4スタジオ				第5スタジオ			
		利用可能日	利用日数	利用率	空き日	利用可能日	利用日数	利用率	空き日	利用可能日	利用日数	利用率	空き日	利用可能日	利用日数	利用率	空き日	利用可能日	利用日数	利用率	空き日				
平成17年度	299	299	235	79	64	299	295	99	4	299	240	80	59	299	277	93	22	299	239	80	60	299	271	91	26
平成18年度	307	303	243	80	60	307	300	98	7	307	241	79	66	307	280	91	27	307	270	88	37	307	287	94	28
平成19年度	306	306	264	86	42	306	302	99	4	306	229	75	77	306	276	90	30	306	239	78	67	306	276	90	20
平成20年度	306	306	263	86	43	306	300	98	6	306	218	71	88	306	263	86	43	306	268	88	38	306	281	92	25
平成21年度	356	333	310	93	23	342	337	99	5	340	260	76	80	342	306	89	36	342	310	91	32	342	337	99	5

- *開館日数の数え方 1年の日数から休館日<年末年始(12月28日~1月4日)>を除いたもの
- *利用可能日の数え方 ホール…開館日数から利用対象外日数(計画的な工事日数等)を除いたもの
- *利用率=利用日数/利用可能日数



(「かながわアートホール 平成21年度年報」)

○ ホールの利用率は93.1%、一番利用率の高い第1スタジオは98.5%であった。

・ 過去1年間に美術鑑賞等の文化芸術の鑑賞・活動を行ったことのある人の割合

○平成18年「社会生活基本調査」 都道府県、趣味・娯楽の種類別行動者

都道府県	10歳以上 推定人口 (千人)	美術鑑賞※ 1	演芸・演 劇・舞踊鑑 賞※1	映画鑑賞※ 2	音楽会など によるクラ シック音楽 鑑賞	音楽会など によるポ ピュラー音 楽・歌謡曲 鑑賞	C D・レ コープ・レ コードなど による音楽 鑑賞	DVD・ビ デオなどに よる映画鑑 賞※3	楽器の 演奏	邦楽 (民謡、日 本古来の音 楽を含む)	コーラス・ 声楽
全 国	113,604	18.5	14.2	37.3	9.3	12.2	52.4	45.9	10.5	1.9	3.0
北 海 道	4,967	14.6	10.3	32.4	9.7	12.5	50.8	44.8	10.0	1.8	2.8
青 森 県	1,258	15.5	8.7	29.9	6.5	7.6	44.7	40.6	6.5	1.0	2.0
岩 手 県	1,223	12.0	13.0	25.7	7.2	9.2	44.4	38.2	7.5	1.6	2.9
宮 城 県	2,101	14.9	12.4	34.8	8.8	12.0	51.1	44.1	11.1	2.3	3.2
秋 田 県	1,015	11.5	11.4	24.9	7.8	10.4	43.1	36.8	7.9	1.1	2.6
山 形 県	1,074	14.9	10.5	31.5	8.3	9.0	43.1	39.2	7.8	1.3	2.8
福 島 県	1,843	12.9	9.1	25.1	6.9	8.3	46.0	39.2	9.4	1.7	2.5
茨 城 県	2,646	15.4	11.9	31.4	7.7	9.7	50.0	43.5	9.6	1.3	2.5
栃 木 県	1,791	14.7	12.6	35.7	9.1	11.3	50.9	45.2	10.6	2.1	2.7
群 馬 県	1,789	14.6	12.9	33.1	9.1	11.4	50.8	44.0	11.0	1.8	3.2
埼 玉 県	6,328	19.0	15.2	41.1	9.8	12.8	56.3	49.5	12.2	1.7	3.5
千 葉 県	5,436	19.8	14.8	41.0	9.2	12.5	55.8	48.0	11.6	2.0	3.3
東 京 都	11,487	28.0	21.5	46.4	13.9	15.9	61.6	53.4	11.3	2.4	3.3
神 奈 川 県	7,901	22.0	16.7	46.3	12.2	14.0	60.4	52.3	13.7	2.4	3.6
新 潟 県	2,160	15.2	10.6	28.2	7.3	12.5	44.7	39.9	8.2	1.1	2.6
富 山 県	983	20.1	12.8	38.2	7.2	11.1	44.7	40.9	7.6	1.8	2.7
石 川 県	1,029	23.1	12.9	36.9	10.6	11.2	48.9	43.3	8.8	2.4	2.1
福 井 県	720	16.9	11.0	38.5	8.1	10.3	47.9	44.4	8.6	1.7	3.0
山 梨 県	781	15.2	12.8	30.2	7.5	11.4	46.3	41.8	9.6	1.8	3.2
長 野 県	1,941	18.9	13.1	28.1	12.0	13.0	50.0	42.8	12.0	1.4	3.9
岐 阜 県	1,869	13.8	12.0	36.2	6.8	11.4	47.2	41.8	9.0	1.6	2.2
静 岡 県	3,377	17.8	12.9	33.8	8.3	12.8	51.5	45.0	10.2	1.9	3.2
愛 知 県	6,471	19.2	16.5	41.2	8.7	13.6	54.3	47.4	11.1	2.3	3.0
三 重 県	1,662	13.2	13.0	37.2	5.8	11.8	50.1	42.6	9.1	1.5	2.7
滋 賀 県	1,224	16.8	12.7	40.4	10.1	12.9	55.9	49.3	12.4	2.0	3.4
京 都 府	2,356	22.4	15.3	38.0	10.8	14.3	53.2	45.2	12.6	1.8	3.4
大 阪 府	7,840	18.9	16.9	40.5	8.8	11.9	53.4	47.6	10.2	1.8	3.1
兵 庫 県	4,961	18.8	15.0	36.5	9.9	11.9	53.0	45.6	10.4	1.8	3.4
奈 良 県	1,263	20.6	15.7	41.5	10.1	13.4	55.3	47.5	11.5	2.3	3.9
和 歌 山 県	915	11.9	9.6	31.7	6.7	9.9	46.3	40.3	9.2	1.7	2.1
鳥 取 県	532	21.4	11.4	27.0	7.8	11.7	45.9	40.0	10.2	1.5	2.4
鳥 根 県	651	19.8	11.4	23.7	7.4	8.7	43.4	35.9	9.3	2.0	2.7
岡 山 県	1,724	16.9	11.2	32.2	7.6	10.5	47.7	42.7	10.0	1.8	2.0
広 島 県	2,535	20.4	11.8	38.6	9.7	12.3	50.1	44.8	9.9	1.9	3.0
山 口 県	1,310	18.2	9.8	33.3	6.3	10.3	46.9	41.6	10.3	1.7	3.0
徳 島 県	712	13.5	10.5	32.9	7.1	8.3	44.1	40.7	8.7	2.1	2.1
香 川 県	888	17.7	10.9	34.1	8.5	10.5	47.1	41.6	9.5	1.6	2.6
愛 媛 県	1,292	15.5	9.8	31.4	7.6	9.6	47.8	40.8	9.5	1.5	2.7
高 知 県	697	16.0	9.2	30.0	6.2	9.1	42.1	38.7	7.6	1.1	2.0
福 岡 県	4,454	18.4	13.9	38.0	8.5	12.0	51.2	46.5	9.0	1.7	2.1
佐 賀 県	751	12.5	11.0	32.2	6.8	10.2	44.3	40.2	8.1	2.1	2.2
長 崎 県	1,279	16.3	10.1	26.8	7.0	11.1	43.9	37.5	7.6	1.3	2.6
熊 本 県	1,608	13.0	10.8	34.1	6.5	10.1	45.2	41.2	8.4	1.5	2.7
大 分 県	1,061	12.0	11.3	30.4	7.0	9.7	44.3	38.9	8.6	1.8	2.0
宮 崎 県	1,008	14.9	11.7	27.6	8.8	10.3	47.7	42.9	9.7	1.7	2.5
鹿 児 島 県	1,525	14.7	11.2	25.8	6.8	10.0	48.5	40.0	10.2	1.8	2.3
沖 縄 県	1,170	8.8	12.3	35.6	6.2	8.8	48.6	45.8	10.6	3.4	2.1

本表は、過去1年間に「趣味・娯楽」に関する行動の状況(行動者率)を県別に取りまとめたもの。文化芸術に深くかわりのある行動の状況を抽出。

※1 テレビ・DVDなどは除く。

※2 テレビ・ビデオ・DVDなどは除く。

※3 テレビからの録画は除く。

行動者率(%)

都道府県	邦舞： おどり	洋舞・ 社交ダンス	書道	華道	茶道	絵画・彫刻 の制作	陶芸・ 工芸	写真の撮影 ・プリント	詩・和歌・ 俳句・小説 などの創作	趣味としての 読書
全 国	2.2	1.8	4.5	2.6	1.9	3.5	2.5	27.3	2.6	41.9
北 海 道	2.0	2.0	4.2	2.0	1.8	2.7	2.7	24.3	2.4	40.9
青 森 県	2.1	1.3	3.4	1.7	1.5	1.7	1.4	18.6	1.6	32.4
岩 手 県	3.9	1.2	3.6	2.1	1.7	2.0	1.7	20.8	1.7	34.6
宮 城 県	2.8	1.2	4.8	2.4	1.7	2.7	3.0	25.8	3.0	40.4
秋 田 県	1.8	1.5	3.2	1.5	1.6	1.8	1.6	18.2	2.1	33.6
山 形 県	2.3	1.7	3.8	2.4	1.5	2.4	2.0	22.0	2.3	34.4
福 島 県	2.2	1.1	3.9	1.9	1.6	2.8	2.1	22.2	3.0	34.2
茨 城 県	2.0	2.0	4.4	2.9	1.4	3.3	3.2	24.7	2.2	37.1
栃 木 県	1.5	1.5	4.4	2.5	1.6	2.8	2.6	26.7	2.5	38.9
群 馬 県	2.5	2.1	4.9	2.3	1.8	3.7	2.9	27.1	2.7	39.5
埼 玉 県	2.3	2.0	4.6	2.5	1.5	3.5	2.3	30.5	2.6	45.4
千 葉 県	2.2	2.3	4.2	2.1	1.5	3.7	3.0	30.0	2.7	46.6
東 京 都	2.3	2.4	4.4	2.6	1.9	4.5	3.1	34.5	3.2	52.0
神 奈 川 県	2.0	2.6	4.0	2.6	1.9	5.2	3.3	34.1	2.7	50.8
新 潟 県	2.2	1.6	4.4	2.1	1.5	2.6	1.4	20.7	1.8	36.2
富 山 県	2.2	1.0	5.0	3.3	2.5	2.5	2.5	22.4	1.9	36.9
石 川 県	2.3	1.3	4.0	4.0	3.1	3.2	2.3	24.1	2.5	37.3
福 井 県	2.6	1.6	4.7	3.2	2.3	2.6	2.6	23.5	2.7	36.0
山 梨 県	2.2	1.5	5.7	2.6	1.5	3.8	2.7	24.6	3.1	37.2
長 野 県	2.0	1.2	4.0	2.7	1.9	3.8	2.9	25.1	3.0	40.3
枝 阜 県	1.9	1.6	4.2	3.0	2.3	3.2	2.0	24.2	2.2	36.1
静 岡 県	1.9	1.5	4.3	2.5	1.9	3.7	2.7	26.6	2.5	39.9
愛 知 県	2.3	1.6	5.4	3.2	2.6	3.3	2.9	30.0	2.5	40.1
三 重 県	3.0	1.3	4.1	3.0	1.8	3.2	2.1	25.4	2.6	36.3
滋 賀 県	1.4	1.3	5.5	3.7	1.9	4.0	2.8	30.0	2.7	42.5
京 都 府	1.7	2.2	5.5	3.5	2.9	4.4	2.7	29.4	2.6	45.2
大 阪 府	2.0	2.0	4.4	2.4	2.1	3.7	2.8	27.6	2.5	42.8
兵 庫 県	2.2	1.5	5.8	2.7	1.8	4.0	2.2	28.5	3.0	42.8
奈 良 県	1.6	1.7	5.2	3.2	2.2	3.9	2.6	30.0	2.7	45.2
和 歌 山 県	1.9	1.0	4.1	2.5	1.6	2.6	1.8	21.9	2.4	34.5
鳥 取 県	2.6	0.7	4.7	3.7	2.3	3.3	2.3	21.9	2.2	37.5
島 根 県	2.8	0.7	4.4	3.5	2.2	2.4	2.2	20.1	2.2	35.2
岡 山 県	1.9	0.9	4.5	3.4	2.6	3.3	2.3	26.4	2.2	39.2
広 島 県	1.8	1.2	4.3	2.8	2.2	3.4	2.4	25.7	1.8	40.2
山 口 県	1.6	1.2	4.2	3.1	2.4	3.2	2.1	25.6	2.7	39.7
徳 島 県	2.9	1.0	5.1	3.2	1.6	2.7	2.0	20.8	2.7	35.8
香 川 県	1.5	0.9	4.8	3.7	2.2	2.7	1.9	22.9	2.7	39.7
愛 媛 県	1.7	1.0	4.6	2.3	1.8	2.4	2.1	23.9	3.2	37.2
高 知 県	1.7	1.1	3.6	2.3	1.5	2.3	1.6	19.1	2.3	33.4
福 岡 県	1.7	1.5	4.3	2.5	1.7	3.4	1.8	26.0	2.2	40.1
佐 賀 県	2.8	1.3	6.0	2.8	1.8	2.3	1.8	17.9	2.0	32.8
長 崎 県	2.2	1.2	4.8	2.1	1.3	2.4	1.6	21.4	2.2	36.2
熊 本 県	2.7	2.0	4.9	2.5	1.5	3.4	2.4	22.1	2.6	34.3
大 分 県	2.0	1.1	4.5	2.7	1.4	2.7	1.5	21.0	2.4	32.6
宮 崎 県	3.1	1.1	4.6	1.7	0.8	2.3	2.1	22.2	2.1	37.7
鹿 児 島 県	3.0	1.2	4.7	2.4	0.9	4.0	2.9	24.0	2.1	37.2
沖 縄 県	3.7	1.8	3.2	1.0	0.8	1.8	1.4	19.0	1.9	32.9

※文化課で「社会生活基本調査」の中から関係データを整理・集計

平成18年 社会生活基本調査 調査対象 全国約8万世帯のふだん住んでいる10歳以上の世帯員(第1次抽出単位を平成12年調査調査区とし、第2次抽出単位を世帯とする層化2段抽出法)
 調査期日 平成18年10月20日(5年ごと)
 調査方法 調査員による調査票の配布及び収集

・学術・文化・芸術・スポーツ分野で活動するNPO法人の数（平成22年6月30日現在）

1 法人認証数の状況（※解散・所轄庁変更があった法人は、年度別内訳から減算）

現在の 認証件数		年度別内訳							
		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
2529	件	6件	87件	111件	122件	199件	262件	284件	324件
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度			
		324件	249件	256件	258件	47件			

2 認証団体の活動分野別区分（複数該当）

①保健・医療・福祉	1397件	②社会教育	625件
③まちづくり	518件	④学術・文化・芸術・スポーツ	550件
⑤環境の保全	405件	⑥災害救援	65件
⑦地域安全	83件	⑧人権・平和	207件
⑨国際協力	266件	⑩男女共同参画社会	70件
⑪子どもの健全育成	717件	⑫情報化社会	76件
⑬科学技術の振興	48件	⑭経済活動の活性化	128件
⑮職業能力・雇用機会	222件	⑯消費者の保護	77件
⑰連絡・助言・援助	467件		

（県民局NPO協働推進課調べ）

- 「かながわ文化芸術振興計画」掲載のNPO法人数（平成20年12月31日現在、認証件数2232件、学術・文化・芸術・スポーツ分野457件）比で、全体の認証件数は+13.3%であるのに対し、学術・文化・芸術・スポーツ分野のNPOは+20.4%となっている。

本県でメセナ活動を行った企業、プログラム数

メセナ活動の実施地域—国内全域で実施、複数地域での実施も 247 件

■メセナ活動は 47 都道府県全域で実施され、地域を限定しない活動が 144 件あった。都道府県別では「東京都」(37.8%) が最も多く、次いで「大阪府」(10.1%)、「愛知県」(8.5%)、「福岡県」(4.9%)、「神奈川県」(4.7%)、「北海道」(4.1%)、「兵庫県」(4.1%)、「京都府」(3.9%) であった。

■地域ブロック別の分布を見ると、東海、九州・沖縄地方で若干の増加が見られた。3 大都市圏「東京都」「大阪府」「愛知県」とそれ以外の地域とで活動件数の比率を見ると、1,470 件(52.1%) 対 1,352 件(47.9%) で前年度とほぼ同水準である。

■メセナ活動総数 2,822 件のうち、複数の都道府県で実施された活動は 247 件(8.8%) であった。

【設問】 各活動の実施地域を都道府県でお答えください (MA)

表 1 メセナ活動の実施地域

プログラム数(件)		(対前年比)	%	企業数(社)		%	プログラム数(件)		(対前年比)	%	企業数(社)		%
北海道	115	3	4.1%	51	11.0%	近畿地方	536	-35	19.0%	136	29.3%		
東北地方	90	-20	3.2%	47	10.1%	滋賀県	37	8	1.3%	19	4.1%		
青森県	13	-8	0.5%	8	1.7%	京都府	111	3	3.9%	42	9.1%		
岩手県	24	-2	0.9%	13	2.8%	大阪府	286	-20	10.1%	95	20.5%		
宮城県	26	-18	0.9%	22	4.7%	兵庫県	115	-22	4.1%	41	8.8%		
秋田県	8	-5	0.3%	8	1.7%	奈良県	27	2	1.0%	17	3.7%		
山形県	22	4	0.8%	9	1.9%	和歌山県	22	2	0.8%	12	2.6%		
福島県	10	-18	0.4%	10	2.2%	中国地方	103	-11	3.6%	45	9.7%		
関東地方	1266	-52	41.9%	264	56.9%	鳥取県	9	0	0.3%	6	1.3%		
茨城県	16	-8	0.6%	10	2.2%	島根県	10	-2	0.4%	6	1.3%		
栃木県	29	15	1.0%	14	3.0%	岡山県	26	-3	0.9%	16	3.4%		
群馬県	26	-1	0.9%	15	3.2%	広島県	66	2	2.3%	30	6.5%		
埼玉県	35	1	1.2%	24	5.2%	山口県	10	-4	0.4%	7	1.5%		
千葉県	37	-4	1.3%	25	5.4%	四国地方	57	3	2.0%	26	5.6%		
東京都	1067	-135	37.8%	231	49.8%	徳島県	13	-3	0.5%	9	1.9%		
神奈川県	132	-12	4.7%	58	12.5%	香川県	26	-5	0.9%	12	2.6%		
北陸・甲信越地方	144	-12	5.1%	67	14.4%	愛媛県	21	0	0.7%	13	2.8%		
山梨県	16	2	0.6%	11	2.4%	高知県	10	2	0.4%	8	1.7%		
長野県	71	-3	2.6%	38	8.2%	九州・沖縄地方	239	5	8.5%	79	17.0%		
新潟県	23	-6	0.9%	14	3.0%	福岡県	138	-14	4.9%	38	8.2%		
富山県	18	2	0.7%	14	3.0%	佐賀県	25	11	0.9%	8	1.7%		
石川県	21	3	0.8%	13	2.8%	長崎県	16	2	0.6%	8	1.7%		
福井県	14	-2	0.5%	9	1.9%	熊本県	21	6	0.7%	13	2.8%		
東海地方	350	10	13.0%	102	22.0%	大分県	34	3	1.2%	18	3.9%		
岐阜県	48	1	1.8%	20	4.3%	宮崎県	21	1	0.7%	10	2.2%		
静岡県	69	4	2.6%	34	7.3%	鹿児島県	27	-1	1.0%	16	3.4%		
愛知県	229	7	8.5%	66	14.2%	沖縄県	18	5	0.6%	12	2.6%		
三重県	23	-2	0.9%	13	2.8%	国内全域	122	-32	4.3%	58	12.5%		
						海外	68	-43	2.4%	37	8.0%		
						地域を限定しない	144	-29	5.3%	71	15.3%		
						総数	2822	-212	100.0%	464	100.0%		

※ 1つの活動が複数地域で行われるものについては、企業数・活動件数ともに重複している。

※ 「海外」には、現地で実施した活動に加え、現地での展示会の協賛なども含む。

※ 「地域を限定しない」には、公募地域を限定しない顕彰・コンクール、実施場所を持たない冊子・ウェブサイトの制作などが含まれる。

「『2009 年度 メセナ活動実態調査』報告書」から(2010年3月 社団法人企業メセナ協議会)

○ 都道府県別の実施プログラム数では、神奈川県は132件、4.7%で全国5位となっている。

2009年度メセナ活動実態調査

調査対象	全国の上場企業、非上場売上高上位300社、企業メセナ協議会会員企業、メセナアワード応募企業等、その他前年回答のあった企業等、計4,384社
調査時期	平成21年4月～5月(毎年実施)
調査方法	郵送によるアンケート
調査対象期間	平成20年4月1日～21年3月31日[平成20年度]
有効回答数	636社[有効回答率14.5%]

3 文化芸術振興審議会意見

(1) 県民の文化芸術活動の充実について

県民の文化芸術の鑑賞機会に関しては、文化施設における公演事業、展覧会の実施により、多様な文化芸術の鑑賞機会が提供されています。こうした中、今後は、神奈川芸術劇場の開設により、さらに、演劇、ミュージカル、ダンス等舞台芸術に関する鑑賞機会の充実、文化芸術の想像・発信が期待されます。

この際、計画が県域全体を包括して策定していることに対応するため、計画の「推進体制」で市町村との連携・協力の必要性に触れているように、県域全体の均衡を考えた施策展開を図っていくため、市町村との施策・事業の連携なども推進していく必要があります。

さらに、鑑賞機会の提供のほか、県民の文化芸術に対する興味や関心を深めるための講座等も多様な内容で実施されているものの、県民ニーズ調査においては、文化や芸術の鑑賞の場が身近に整っていることについて重要としつつもそれが満たされていない、という結果であることを踏まえ、さらなる工夫をこらしていく余地があると考えます。

芸術家等への支援に関しては、県立文化施設の練習・稽古などのための活用として、神奈川芸術劇場のスタジオの活用が期待される中、他の県立文化施設についても、さらなる活用の検討に順次取り組んでいくことが望まれます。

文化芸術団体の育成等に関しては、計画では育成とともに連携・協働に主眼を置いている中、小・中・高等学校の教育現場におけるNPOとの連携・協働の実績があります。このように、NPOの多様な活動が文化芸術を通じた教育活動でも成果を挙げている現状を踏まえ、今後は、子どもたちの発達段階の年齢層に応じたふさわしい形での体験機会を一層確保するため、学齢期前の子どもたちを含め、連携・協働の視点を踏まえた育成に取り組むことが望まれます。

(2) 文化資源を活用した地域づくりの推進について

文化資源を活用した地域づくりの推進では、文化芸術に関する交流の推進について、児童から大人まで幅広い年齢層を対象にした施策の展開が行われています。

創造的活動の推進について、平成23年1月開館予定の神奈川芸術劇場については、新たな舞台芸術作品等の創造・発信が目的の一つとされています。県民意見も踏まえ、今まで劇場での鑑賞経験がないような人を意識するなど、幅広く鑑賞者を開拓する取組みにも期待します。

文化資源の活用については、各施策へ取り組む中、神奈川芸術劇場においては、賑わいを創出することが目的の一つとされ、近隣の商業施設などとの連携により賑わいや新たな魅力を創出することとしています。これについては、施策の主眼の一つが地域の活性化であることから、モデル化して県内他地域へ広げてゆくことが求められます。

(3) 文化芸術の振興を図るための環境整備について

学校施設、公共的施設の活用など、文化芸術振興の環境整備については、各施策の実施状況を検証しながら着実に施策を推進していく必要があると考えます。施策の展開に当たっては、文化芸術活動に対する個人や企業等からの寄付や支援を促進する取組みの検討を進める必要があります。

(4) 参考指標について

実施事業に関する内容把握だけでは分からない、事業全体の評価のため、次年度以降、データの経年比較による分析を可能な限り行うことが求められます。